

感染状況・医療提供体制の分析（令和4年9月28日時点）

【令和4年9月30日 モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ～ は7日間移動平均で算出	前回の数値 (9月21日公表時点)	現在の数値 (9月28日公表時点)	前回との比較	これまでの最大値	項目ごとの分析
感染状況	新規陽性者数 ¹ (うち65歳以上)	6,800.3人 (597.6人)	6,135.3人 (493.6人)	→	32,105.7人 (2022/8/3)	総括コメント 感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である 新規陽性者数の増加比は継続して100%を下回っている。今週の新規陽性者数は、連休中の検査数の減少等の影響を受けた数値となっており、その評価には注意が必要である。 個別のコメントは別紙参照
	#7119（東京消防庁救急相談センター） ² における発熱等相談件数	85.9件	78.1件	→	257.9件 (2022/7/25)	
	検査の陽性率（PCR・抗原） (検査人数)	27.4% (12,107人)	24.9% (11,457人)	→	52.2% (2022/8/7)	
医療提供体制	救急医療の東京ルール ³ の適用件数	117.3件	111.6件	→	309.7件 (2022/7/24)	総括コメント 通常の医療との両立が可能な状況である 入院患者数は減少し、オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数も減少している。通常医療との両立を可能とするために、病床を柔軟に活用する必要がある。 個別のコメントは別紙参照
	入院患者数 (病床数)	2,148人 (6,862床)	1,654人 (6,737床)	↓	4,459人 (2022/8/20)	
	重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者 (病床数)	21人 (295床)	14人 (295床)	↓	297人 (2021/8/28)	

1 令和4年9月26日以前は、都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除いており、また、令和4年9月27日以降は、空港・海港検疫にて陽性が確認され、都に報告された新規陽性者分を除いている。

2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

3 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる 都民年代別ワクチン接種状況 (令和4年9月27日現在)

都内全人口			12歳以上			高齢者(65歳以上)			
1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	4回目
81.1%	80.6%	63.9%	88.0%	87.5%	70.3%	93.2%	93.0%	89.5%	74.9%





総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>





-  大規模な感染（拡大）が継続している / 感染の再拡大の危険性が高いと思われる
-  感染が拡大している / 感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
-  感染拡大の兆候がある（と思われる） / 感染状況は改善傾向にあるが、注意が必要である
-  感染者数が一定程度に収まっている（と思われる）

2 医療提供体制

<判定の要素>

モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

-  医療体制がひっ迫している / 通常の医療が大きく制限されている（と思われる）
-  通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である / 通常の医療が制限されている状況である
-  体制強化の準備が必要な状況である / 通常の医療との両立が可能な状況である
-  平時の体制で対応可能であると思われる / 通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

（注）通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療（がん、循環器疾患等の医療）